

校異源氏物語・かしは木

衛門のかむのきみかくのみなやみわたり給こと猶をこたて年もかへりぬおと
ゝ北の方おほしななくさまをみたてまつるにしひてかけはなれなむいのちかひ
なくつみをもかるへきことを思ふ心は心として又あなかにこの世にはなれか
たくおしみとゝめまほしき身かはいはけなかりしほとより思ふ心ことにてなに
ことをも人にいまひときはまさらむとおほやけわたくしのことにふれてなめ
ならす思ひのほりしかとその心かなひかたかりけりとひとつふたつのふしこと
に身を思ひおとしてしこなたなへての世中すましようおもひなりてのちの世の
をこなひにほいふかくすゝみにしをおやたちの御うらみを思ての山にもあくか
れむみちのをもきほたしなるへくおほえしかはとさまかうさまにまきはしつゝ
ゝすくしつるをつるに猶世にたちまふへくもおほえぬ物思ひのひとかたならす
身にそひにたるはわれよりほかにたれかはつらき心つからもてそなひつるに
こそあめれと思にうらむへき人もなし神仏をもかこたむ方なきはこれみなさる
へきにこそはあらめたれもちとせのまつならぬ世はつゐにとまるへきにもあら
ぬをかくひとにもすこしうちしのはれぬへきほとにてなけのあはれをもかけ給
人あらむをこそはひとつおもひにもえぬるしにはせめせてなからへはを
のつからあるましき名をもたち我も人もやすからぬみたれいてくるやうもあら
むよりはなめしと心をい給らんあたりにもさりともおほしゆるいてむかしよろ
つのこといまはのとちめにはみなきえぬへきわさなり又ことさまのあやまちし
なければ年ころものゝおりふしことにはまつはしならひ給にしかたのあはれも
いてきなんなとつれゝに思つゝくるもうちかへしいとあちなしなどかくほ
ともなくしなしつる身ならんとかきくらし思みたれて枕もうきぬ許人やりなら
すなかしそへつゝいさゝかひまありとて人ゝたちさり給へるほとにかしこに
御ふみたてまつれ給いまはかきりになりにて侍ありさまはをのつからきこしめ
すやうもはへらんをいかゝなりぬるとたに御みゝとゝめさせ給はぬもことはり
なれといとうくも侍かなゝときこゆるにいみしうわなゝけはおもふこともみな
かきさして

いまはとてもえむけふりもむすほゝれたえぬおもひの猶やのこらむあはれ

とたにのたまはせよ心のとめて人やりならぬやみにまとはむみちのひかりにも
し侍らむときこえ給し、うにもこりすまにあはれること、もをいひをこせ給
へりみつからもいまひとたひいふへきことなむとのたまへれはこの人もわらは
よりさるたよりにまいりかよひつゝ、みたてまつりなれたる人なれはおほけなき
心こそうたておほえ給へれいまはときくはいとかなしうてなく、猶この御返
まことにこれをとちめにもこそ侍れときこゆれは我もけふかあすかの心地して
物心ほそければおほかたのあはれ許は思しらるれといと心うきこと、思こりに
しかはいみしうなむつゝ、ましきとてさらにかいたまはす御心本上のつよくつし
やかなるにはあらねとはつかしけなる人の御けしきのおり／＼にまほならぬか
いとおそろしうわひしきなるへしされと御すゝりなとまかなひてせめきこゆれ
はし／＼にかい給とりてしのひてよるのまきれにかしこにまいりぬおとゝか
しききをこなひ人かつらき山よりさうしいてたるまちうけたまひてかちまいら
せむとし給みすほうと経なともいとおとろ／＼しうさはきたり人の申すまゝに
さま／＼ひしりたつけんさなどのおさ／＼よにもきこえすふかき山にこもりた
るなどをもおとうとのきみたちをつかはしつゝ、たつねめすにけにくゝ心月なき
山ふしともなともいとおほくまいるわつらひ給さまのそこはかとなくものを心
ほそく思てねをのみ時／＼なき給おむやうしなともおほくは女のりやうとのみ
うらなひ申ければさることもやとおほせとさらにものゝけのあらはれいてくる
もなきにおもほしわつらひてかゝるくま／＼をもたつね給なりけりこのひしり
もたけたかやかにまふしつへたましくてあらゝかにおとろ／＼しくたらによむ
をいてあなにくやつみのふかき身にやあらむたらにのこゑたかきはいとけおそ
ろしくていよくしぬへくこそおほゆれとてやをらすへりいてゝこのしゝうと
かたらひ給おとゝはさもしりたまはすうちやすみたると人／＼して申させ給へ
はさおほしてしのひやかにこのひしりとものかたりし給おとなひ給へれと猶は
なやきたる所つきてものわらひし給おとゝのかゝる物ともとむかひゐてこのわ
つらひそめ給しありさまなにともなくうちたゆみつゝ、をもり給へることまこと
にこの物のけあらはるへうねむし給へなとこまやかにかたらひ給もいとあはれ
なりかれきゝたまへなにつみともおほしよらぬにうらなひよりけむ女のりや
うこそまことにさる御しうの身にそひたるならはいとしき身をひきかへやむ
ことなくこそなりぬへれさてもをほけなき心ありてさるましきあやまちをひ
きいてゝ人の御なをもたて身をもかへりみぬたくひむかしの世にもなくやはあ
りけると思なおすに猶けはひわつらはしうかの御心にかゝるとかをしられたて

まつりて世になからへむ事もいとまはゆくおほゆるはけにことなる御ひかりな
るへしふかきあやまちもなきにみあはせたてまつりしゆふへのほとりやかて
かきみたりまとひそめにしたましひの身にもかへらすなりにしをかの院のうち
にあくかれありかはむすひと、めたまへよなといよはけにからのやうなるさ
ましてなきみわらひみかたらひ給宮も、のをのみはつかしうつ、ましとおほし
たるさまをかたるさてうちしめりおもやせ給へらむ御さまのおもかけにみたて
まつる心地して思やられ給へはけにあくかるらむたまやゆきかよふらむなとい
と、しき心地もみたるれはいまさらにこの御ことよかけてもきこえしこの世は
かうはかなくてすきぬるをなかき世のほたしにもこそと思なむいとおしき心く
るしき御ことをたひらかにとたにいかてき、をいたてまつらむみしゆめを心ひ
とつに思あはせて又かたる人もなきかいみしういふせくもあるかな、と、りあ
つめ思しみ給へるさまのふかきをつはいとうたておそろしう思へとあはれは
たえしのはすこの人もいみしうなくしそくめして御返み給へは御ても猶いと
かなけにおかしきほとにかい給て心くるしうき、なからいかてかはた、をしは
かりのこらむとあるは

たちそひてきえやしなましうきことを思みたる、けふりくらへにをくるへ
うやはとはかりあるをあはれにかたしけなしと思ふいてやこのけふりはかりこ
そはこのよのおもひいてならめはかなくもありけるかなといと、なきまさり給
て御返ふしなからうちやすみつ、かいたまふことのはのつ、きもなうあやしき
とりのあとのやうにて

ゆくゑなきそらのけふりとなりぬともおもふあたりをたちは、なれしゆふ
へはわきてななめさせ給へとかめきこえさせたまはむ人めをいまは心やすく
おほしなりてかひなきあはれをたにもたえすかけさせ給へなとかきみたりて心
地のくるしさまさりければよいいたうふけぬさきにかへりまいり給てかくかき
りのさまになんともきこえ給へいまさらに人あやしと思あはせむをわか世の、
ちさへ思こそくちおしけれいかなるむかしのちきりにていとか、ることしも心
にしみけむとなくくゝゝるさりいり給ぬれはれいはむこにむかへすへてす、ろこ
とをさへいはせまほしうし給をことすくなにてもと思ふかあはれなるにえもい
てやらす御ありさまをめのともかたりていみしくなきまとふおと、などのおほ
したるけしきそいみしきやきのふけふすこしよろしかりつるをなとかいとよは
けにはみえ給とさはき給なにか猶とまり侍ましきなめりとときこえ給てみつか
らない給宮はこのくれつかたよりなやましうし給けるをその御けしきとみたて

まつりしりたる人くさはきみちておとゝにもきこえたりければおとろきてわたり給へり御心のうちはあなくちおしや思ます方なくてみたてまつらましかはめつらしくうれしからましとおほせと人にはけしきもらさしとおほせはけむさなとめしみすほうはいつとなくふたんにせらるればそうとものなかにけむあるかきりみなまいりてかちまいりさはくよひとよなやみあかさせ給ひて日さしあかるほとにうまれたまひぬおとこ君ときゝ給にかくしのひたることのあやにくにいちしるきかほつきにてさしいてたまへんこそくるしかるへけれ女こそなにとなくまきれあまたの人のみる物ならねはやすけれとおほすに又かく心くるしきうたかひましりたるにては心やすき方にもやし給もいとよしかしさてもあやしやわか世とゝもにおそろしと思しことのむくひなめりこの世にてかく思かけぬことにむかはりぬれはのちのよのつみもすこしかるみなんやとおほす人はたしらぬことなればかく心ことなる御はらにてすゑにいておはしたる御おほえいみしかりなれと思いとなみつかうまつる御うふやのきしきいかめしうおとろくし御かたくさまくしにいて給御うふやしなひよのつねのおしきつかさねたかつきなどの心はえもことさらに心くしにいとましきみえつゝなむ五日の夜中宮の御かたよりこもちの御前の物女はうのなかにもしなくしに思あてたるきはくおほやけことにいかめしうせさせ給へり御かゆてとんしき五十くところくのきやう院のしもへちやうのめしつきところなにかのくまゝていかめしくせさせ給へり宮つかさ大夫よりはしめて院殿上人みなまいれり七夜はうちよりそれもおほやけさまなりちしのおとゝなど心ことにつかうまつり給へきにこのころはなにこともおほされてをほそうの御とふらひのみそありける宮たちかむたちめなどあまたまいり給おほかたのけしきもよになきまてかしつきゝこえ給へとおとゝの御心のうちに心くるしとおほすことありていたうもゝてはやしきこえ給はす御あそひなどはなかりけり宮はさはかりひわつなる御さまにていとむくつけうならはぬことのおそろしうおほされけるに御ゆなともきこしめさす身の心うきことをかゝるにつけてもおほしいれはさはれこのついてもしなはやとおほすおとゝはいとよう人めをかさりおほせとまたむつかしけにおはするなをととりわきてもみたてまつり給はすなどあれはおいしらへる人などはいてやおろそかにもおはします哉めつらしうさしいてたまへる御ありさまのかはかりゆゝしきまてにおはしますをとうつくしみきこゆれはかたみゝにきゝ給てさのみこそはおほしへたつることもまさらめとうらめしうわか身つらくてあまにもなりなはやの御心つきぬよるなともこなたにはおほとこのもらすひる

つかたなとそさしのそき給世中のはかなきをみるまゝにゆくすゑみしかう物心
ほそくてをこなひかちになりにて侍れはかゝるほとんうかはしき心ちするに
よりえまいりこぬをいかゝ御心ちはさはやかにおほしなりになりや心くるしう
こそとて御き丁のそはよりさしのそき給へり御くしもたけ給てなをえいきたる
ましき心ちなむし侍るをかゝる人はつみをもかなりあまになりてもしそれに
やいきとまると心み又なくなるともつみをうしなふこともやとなむ思はへると
つねの御けはひよりはいとおとなひてきこえ給をいとうたてゆゝしき御ことな
りなとてかさまてはおほすかゝることはさのみこそおそろしかなれとさてなか
らへぬわさならはこそあらめときこえ給御心のうちにはまことにさもおほしよ
りてのたまはゝさやうにてみたてまつらむはあはれなりなむかしかつみつゝも
ことにふれて心をかれたまはむか心くるしう我なからもえ思なおすましうゝき
ことうちましりぬへきをゝのつからをろかに人のみとかむることもあらむかい
とくおしう院などのきこしめさむこともわかをこたりにのみこそはならめ御
なやみにことつけてさもやなしたてまつりてましなとおほしよれと又いとあた
らしうあはれにかはかりとをき御くしのおひさきをしかやつさむことも心くる
しければなをつよくおほしなれけしうはおはせしかきりとみゆる人もたひらな
るためしちかければさすかにたのみあるよになむなときこえ給て御ゆまいり給
いといったうあおみやせてあさましうはかなけにてうちふしたまへる御さまおほ
ときうつくしけなれはいみしきあやまちありとも心よはくゆるしつへき御さま
かなとみたてまつり給山のみかとはめつらしき御ことたひらかなりときこしめ
してあはれにゆかしうおもほすにかなやみたまふよしのみあれはいかに物し
給へきにかと御をこなひもみたれておほしけりさはかりよりはり給へる人のもの
をきこしめさてひころへたまへはいとたのもしけなくなり給てとしころみたて
まつらさりしほとよりも院のいとこひしくおほえ給を又もみたてまつらすなり
ぬるにやといたうない給かくきこえ給さまさるへき人してつたへそうせさせ給
ければいとたえかたうかなしとおほしてあるましきことゝはおほしめしなから
よにかくれていてさせたまへりかねてさる御せうそこもなくてはかにかくわ
たりおはしまいたれはあるしの院おとろきかしこまりきこえ給世中をかへりみ
すましう思はへりしかとなをまとひさめかたきものはこのみちのやみになむ侍
りければをこなひもけたいしてもしをくれさきたつみちのたうりのまゝならて
わかれなはやかてこのうらみもやかたみにのこらむとあちきなさにこのよのそ
しりをはしらてかくものし侍ときこえ給御かたちことにてもなまめかしうなつ

かしきさまにうちのひやつれ給てうるわしき御ほうふくならず、みそめの御すかたあらまほしうきよなるもうらやましくみたてまつり給れいのまつなみたおとし給わつらひ給御さまことなる御なやみにも侍らすた、月ころよはり給へる御ありさまにはかゝしう物なともまいらぬつもりにやかく物したまふにこそなときこえ給かたわらいたきをましなれともとて御丁のまへに御しとねまゐりていれたてまつり給宮をもとかう人ゝつくるひきこえてゆかのしもにおろしたてまつる御木丁すこしをしやせたまひてよゐかちそうなどの心ちすれとまたけむつくはかりのをこなひにもあらねはかたわらいたけれとた、おほつかなかくおほえ給らむさまをさなからみ給へきなりとて御めをしのこはせたまふ宮もいとよはけにない給ていくへうもおほえ侍らぬをかくおはしまいたるついでにあまになさせ給てよときこえ給さる御ほいはいとたうときことなるをさすかにかきらぬいのちのほにてゆくすゑとをき人はかへりてことのみたれあり世の人にそしらるゝやうありぬへきなどの給はせておとゝの君にかくなむすゝみのたまふをいまはかきりのさまならはかた時のほとにてもそのたすけあるへきさまにてとなむ思たまふるとのたまへはひころもかくなむのたまへとさけなどの人の心たふろかしてかゝるかたにてすゝむるやうもはへなるをとてきゝもいれ侍らぬなりときこえ給ものゝけのおしへにてもそれにまけぬとてあしかるへきことならはこそはゝからめよはりにたる人のかきりとて物し給はむことをきゝすくさむはのちのくい心くるしうやとの給御心のうちかきりなうしゝろやすくゆつりをきし御ことをうけとりたまひてさしも心さしふかゝらすわかおもふやうにはあらぬ御けしきをことにふれつゝとしころきこしめしおほしつめけることいろにいてゝうらみきこえ給へきにもあらねはよの人の思いふらむところもくちおしうおほしわたるにかゝるおりにもてはなれなむもなにかは人わらへによをうらみたるけしきならてさもあらさらむおほかたのうしろみにはなをたのまれぬへき御をきてなるをたゝあつけをきたてまつりししには思なしてにくけにそむくさまにはあらすとも御そうふんにひろくおもしろき宮たまはりたまへるをつくろひてすませたてまつらむわかおはしますよにさるかたにてもうしろめたからすきゝをき又かのおとゝもさいふともいとおろかにはよもおもひはなち給はしその心はえをもみはてむとおもほしとりてさらはかくものしたるついでにいむことうけ給はむをたにけちえんにせむかしとの給はすおとゝの君うしとおほすかたもわすれてこはいかなるへきことそとかなしくゝちおしければえたへ給はすうちにいりてなとかいくはくも侍ましき身をふりすて

ゝかうはおほしなりにけるなをしはし心をしつめたまひて御ゆまいりものなと
をもきこしめせたうときことなりとも御身よはうてはをこなゐもしたまひてん
やかつはつくるひ給てこそときこえ給へとかしらふりていとつらうのたまふと
おほしたりつれなくてうらめしとおほすこともありけるにやとみたてまつりた
まふにいとおしうあはれなりとかくきこえかへさむおほしやすらふほどによあ
けかたになりぬかへりいらむにみちもひるはゝしたなかるへしといそかせ給て
御いのりに候なかにやむことなうたうときかきりめしいれて御くしおろさせ給
いとさかりにきよなる御くしをそきすてゝいむことうけ給さほうかなしうく
ちおしければおとゝはえしのひあへ給はすいみしうない給院はたもとよりとり
わきてやむことなう人よりもすくれてみたてまつらむとおほしゝをこの世には
かひなきやうにないたてまつるもあかすかなしければうちしほたれ給かくても
たひらかにておなしうはねむすをもつとめたまへときこえをき給てあけはてぬ
るにいそきていてさせたまひぬ宮はなをよはうきえいるやうにし給てはかゝ
しうもえみたてまつらすものなときこえたまはすおとゝもゆめのやうに思
たまへみたるゝ心まとひにかうむかしおほえたるみゆきのかしこまりをもえ御
らむせられぬらうかはしさはことさらにまいり侍りてなむときこえ給御をくり
に人ゝまいらせ給世中のけふかあすかにおほえ侍りしほとに又しる人もなく
てたゝよはむことのあはれにさりかたうおほえはへしかは御ほいにはあらさり
けめとかくきこえつけてとしころは心やすく思たまへつるをもしもいきとまり
侍らはさまことにかはりて人しけきすまゐはつきなかるへきをさるへき山さと
などにかけはなれたらむありさまも又さすかに心ほそかるへくやさまにしたか
ひてなをおほしはなつましくなときこえ給へはさらにかくまておほせらるゝな
むかへりてはつかしう思たまへらるゝみたり心ちとかくみたれ侍てなにことも
えわきまへはへらすとてけにいとたえかたけにおほしたりこやの御かちに御物
のけいてきてかうそあるよいかしこうとりかへしつとひとりをはおほしたり
しかいとねたかりしかはこのわたりにさりけなくてなむ日ころさふらひつるい
まはかへりなむとてうちわらふいとあさましうさはこの物のけのこゝにもはな
れさりけるにやあらむとおほすにいとおしうくやしうおほさる宮すこしいきい
て給やうなれとなをたのみかたけにみえ給さふらふ人ゝもいといふかひなう
おほゆれとかうてもたひらかにたにおはしまさはとねむしつゝみすほう又のへ
てたゆみなくをこなせなとよろつにせさせたまふかのゑもんのかみはかゝる
御ことをきゝ給にいとゝきえいるやうにし給てむけにたのむかたすくなうなり

給にたり女宮のあはれにおほえたまへはこゝにわたりたまはむことはいまさら
にかかるくしきやうにもあらむをうへもおとゝもかくつとそひおはすれはをの
つからとりはつしてみたてまつり給やうもあらむにあちきなしとおほしてかの
宮にとかくしていまひとたひまうてむとのたまふをさらにゆるしきこえ給はす
たれにもこの宮の御ことをきこえつけ給はしめよりはゝみやす所はおさく心
ゆきたまはさりしをこのおとゝのゐたちねむころにきこえ給て心さしふかゝり
しにまけ給て院にもいかゝはせむとおほしゆるしけるを二品宮の御ことおもほ
しみたれけるついでに中くこの宮はゆくさきうしろやすくまめやかなるうし
ろみまうけ給へりとのたまはすときゝ給しをかたしけなう思いつかくてみすて
たてまつりぬるなめりと思につけてはさまくにいとおしけれと心よりほかな
るいのちなれはたへぬちきりうらめしうておほしなけれむか心くるしきこと
御心さしありてとふらひ物せさせたまへとはゝうへにもきこえ給いてあなゆゝ
しをくれたてまつりてはいくはくよにふへき身とてかうまでゆくさきのことを
はのたまふとてなきにのみなきたまへはえきこえやりたまはす右大弁の君にそ
おほかたのことゝもはくはしうきこえ給心はへのゝとかによくおはしつる君な
れはおとうとのきみたちも又すゑくゝのわかきはおやとのみたのみきこえ給へ
るにかう心ほそうの給をかなしとおもはぬ人なくとのゝうちの人もなけくおほ
やけもおしみくちおしからせ給かくかきるときこしめしてにはかに権大納言に
なさせ給へりよろこひに思おこしていまひとたひもまいり給やうもやあるとお
ほしのたまはせけれとさらにえたためらひやりたまはてくるしきなかにもかしこ
まり申給おとゝもかくをもき御をほえをみたまふにつけてもいよくかなしう
あたらしとおほしまとふ大将の君つねにいとふかう思なけきとふらひきこえ給
御よろこひにもまつまうてたまへりこのおはするたいのほとりこなたのみかと
はむまくるまたちこみ人さわかしうさはきみちたりこととなりてはをきあか
ることもおさくしたまはねはおもくしき御さまにみたれなからはえたいめ
したまはて思つゝよりはりぬることゝ思にくちおしければなをこなたにいらせた
まへいとらうかはしきさまにはへるつみはおのつからおほしゆるされなむとて
ふしたまへるまくらかみのかたにそうなとしはしいたし給ていれたてまつり給
はやうよりいさゝかへたて給ことなうむつひかはし給御中なれはわかれむこと
のかなしうこひしかるへきなけきおやはらからの御思にもをとらすけふはよろ
こひとて心ちよけならましをとおもふにいとくちおしうかひなしなとかくたの
もしけなくはなり給にけるけふはかゝる御よろこひにいさゝかすくよかにもや

とこそ思侍つれとて木丁のつまひきあげたまへれはいとくちおしうその人にも
あらずなりにてはへりやとてえほうしはかりおしいれてすこしおきあからむと
し給へといとくるしけなりしろき、ぬとものなつかしうなよ、かなるをあまた
かさねてふすまひきかけてふしたまへりおましのあたり物きよけにけはひかう
はしう心にく、そすみなしたまへるうちとけなからようありとみゆをもくわ
つらひたる人はをのつかからかみひけもみたれものむつかしきはひもそふわさ
なるをやせさらほひたるしもいよく、しろうあてなるさましてまくらをそはた
て、ものなときこえ給けはひいとよはけにいきもたえつ、あはれけなりひさし
うわつらひたまへるほとよりはことにいたうもそこなはれたまはさりけりつね
の御かたちよりも中／＼まさりてなむみえ給とのたまふものからなみたをしの
こひてをくれさきたつへたてなくとこそちきりきこえしかいみしうもあるかな
この御心ちのさまをなにことにてをもり給とたにえき、わき侍らすかくしたし
きほとなからおほつかなくのみなどの給に心にはをもくなるけちめもおほえ侍
らすこそとくるしきこともなければたちまちにかうも思たまへさりしほとに
月日もへてよはり侍にければいまはうつし心もうせたるやうになんおしけなき
身をさま／＼にひきと、めらるゝいのりくわんなどのちからにやさすかにか、
つらふも中／＼くるしう侍れは心もてなむいそきたつ心ちしはへるさるはこ
のよのわかれさりかたきことはいとおほうなむおやにもつかうまつりさしてい
まさらに御心ともをなやまし君につかうまつることもなかはのほとにて身をか
へりみるかたはたましてはか／＼しからぬうらみをと、めつるおほかたのなけ
きをはさる物にて又心のうちに思給へみたるゝことの侍をかゝるいまはのきさ
みにてなにかはもらすへきと思はへれとなをしのひかたきことをたれにかはう
れへ侍らむこれかれあまたものすれとさま／＼なることにてさらにかすめはへ
らむもあいなしかし六てうの院にいさゝかなることのたかひめありて月ころ心
のうちにかしこまり申すことなむはへりしをいとほいなう世中心ほそう思なり
てやまゐつきぬとおほえはへしにめしありて院の御かのかくその心みのひまい
りて御けしきをたまはりしになをゆるされぬ御心はへあるさまに御ましりをみ
たてまつりはへりていと、よになからへむことは、かりおほうおほえなり侍
りてあちきなう思たまへしに心のさはきそめてかくしつまらすなりぬるになむ
人かすにはおほしいれさりけめといはけなうはへし時よりふかくたのみ申す心
の侍しをいかなるさうけんなどのありけるにかとこれなむこのよのうれへにて
のこり侍へければるうなかのゝちのよのさまたけにもやと思給ふるをことのつ

いてはへらは御みゝと、めてよろしうあきらめ申させたまへなからむうしろにもこのかうしゆるされたらむなむ御とくにはへるへきなどの給まゝにいとくるしけにのみゝえまされはいみしうて心のうちに思あはすることゝもあれとさしてたしかにはえしもおしはからすいかなる御心のおにゝかはさらにさやうなる御けしきもなくかくをもりたまへるよしをもきゝおとろきなけきたまふことかきりなうこそくちおしかり申給めりしかなくかくおほすことあるにてはいまゝてのこいたまひつらむこなたあきらめ申へかりけるものをいまはいふかひなしやとてとりかへさまほしうかなしくおほさるけにいさゝかもひまありつるおりきこえうけ給はるへうこそはへりけれされといとかうけふあすとしもやはと身つからなからしらぬいのちのほとを思ひのとめはへりけるもはかなくなむこのことはさらに御心よりもらし給ましさるへきついて侍らむおりには御ようゐくはへたまへとてきこえをくになむ一条にももし給宮ことにふれてとふらひきこえたまへ心くるしきさまにて院などにもきこしめされたまはむをつくろひたまへなどの給いはまほしきことはおほかるへけれと心ちせむかたなくなりにけれはいてさせたまひねとてかきゝこえたまふかちまいるそうともちかうまいりうへおとゝなどおはしあつまりて人ゝもたちさはけはなくゝいて給ぬ女御をはさらにもきこえずこの大将の御かたなともいみしうなけき給心おきてのあまねく人のこのかみ心にものしたまひければ右の大とのゝきたのかたもこのきみをのみそむつまじきものに思きこえ給ければよろつに思なけき給て御いのりなとゝりわきてせさせ給けれとやむくすりならねはかひなきわさになむありける女宮にもつるにえたいめしきこえたまはてあわのきえいるやうにてうせ給ぬとしころしたの心こそねむころにふかくもなかりしかおほかたにはいとあらまほしくもてなしかしつきゝこえてけなつかしう心はへおかしうゝちとけぬさまにてすくい給ければつらきふしもことになしたゝかくみしかゝりける御身にてあやしくなへての世すさまじう思給へけるなりけりと思いてたまふにいみしうておほしいりたるさまいと心くるし宮す所もいみしう人わらへにくちおしとみたてまつりなけき給ことかきりなしおとゝきたのかたなどはましていはむかたなくわれこそさきたゝめ世のことはりなうつらいことゝこかれたまへとなにかひなしあま宮はおほけなき心もうたてのみおほされて世になかゝれとしもおほさゝりしをかくなむときゝ給はさすかにいとあはれなりかしわか君の御ことをさそとおもひたりしもけにかゝるへきちきりにてや思のほかに心うきこともありけむとおほしよるにさまゝもの心ほそうてうちなかれ給ぬやよひに

なれはそらのけしきも、のうらゝかにてこの君いかのほとになり給ていとしろう、つくしうほとよりはおよすけて物かたりなし給おとゝわたり給て御心ちはさはやかになりたまひにたりやいてやいとかひなくもはへるかなれいの御ありさまにてかくみなしたてまつらましかはいかにうれしう侍らまし心うくおほしすてけることゝなみたくみてうらみきこえ給ひゝにわたり給ていましもやむことなくかきりなきさまにもてなしきこえ給御いかにもちるまいらせたまはむとてかたちことなる御さまを人ゝいかなるときこえやすらへと院わたらせたまひてなにか女に物し給はゝこそおなしすちにいまゝしくもあらめとてみなみおもてにちるさきおましなとよそひてまいらせ給御めのといとはなやかにさうそきて御前の物いろゝをつくしたるこ物ひわりこの心はへともをうちにもとにも本の心をしらぬことなれはとりちらしなに心もなきをいと心くるしうまはゆきわさなりやとおほす宮もおきゐ給て御くしのすゑのところせうひろこりたるをいとくるしとおほしてひたいなとなてつけておはするに木丁をひきやりてゐ給へはいとはつかしうてそむきたまへるをいとゝちひさうほそり給て御くしはをしみきこえてなかうそきたりければうしろはことにけちめもみえたまはぬほとなりすきゝみゆるにひいろともきかちなるいまやういろなとき給てまたありつかぬ御かたはらめかくてもうつくしきことの心ちしてなまめかしうおかしけなりいてあな心うすみそめこそなをいとうたてめもくるゝいろいろりけれかやうにてもみたてまつることはたゆましきそかしと思なくさめはへれとふりかたうわりなき心ちするなみたの人わろさをいとかう思すてられたてまつる身のとかに思なすもさまゝにむねいたうくちおしくなむとりかへす物にもかなやとうちなけきたまひていまはとておほしはなれはまことに御心といとひすて給けるとはつかしう心うくなむおほゆへきなをあはれとおほせときこえたまへはかゝるさまの人は物のあはれもしらぬものときゝしをましてもとよりしらぬことにていかゝはきこゆへからむとのたまへかひなのことやおほしゝるかたもあらむ物をとばかりの給さしてわか君をみたてまつり給御めのとたちはやむことなくめやすきかきりあまたさふらふめしいてゝつかうまつるへき心きててなどの給あはれのこりすくなき世におひつへき人にこそとていたきとりたまへはいと心やすくうちゑみてつふゝとこえてしろうゝつくし大将などのちこおひほのかにおほしいつるにはに給はす女御の御宮たちはたちゝみかとの御かたさまにわうけつきてけたかうこそおはしませことにすくれてめてたうしもおはせすこの君いとあてなるにそへてあい行つきまみのかをりてゑかちなる

なとをいとあはれとみ給思なしにやなをいとうおほえたりかしたゝいまなからまなこゐのゝとかにはつかしきさまもやうはなれてかをりおかしきをさまなり宮はさしもおほしわかす人はたさらにしらぬことなれはたゝひとゝころの御心のうちにのみそあはれはかなかりける人のちきりかなとみ給におほかたの世のさためなさもおほしつゝけられてなみたのほろゝとこほれぬるをけふはこといみすへき日をとをしのこひかくし給しつかに思てなけくにたへたりとうちすうしたまふ五十八をとおりすてたる御よはひなれとすゑになりたる心ちし給ていと物あはれにおほさる汝かちゝにともいさめまほしうおほしけむかしこのことの心しれる人女はうの中にもあらむかししらぬこそねたけれおこなりとみるらんとやすからすおほせとわか御とかあることはあへなむふたついには女は御ためこそいとおしけれなとおほしていろにもいたしたまはすいとなに心なう物かたりしてわらひ給へるまみくちつきのうつくしきも心しらすらむ人はいかゝあらむなをいよくにかよひたりけりとみ給におやたちのこたにあれかしとない給らむにもえみせす人しれすはかなきかたみはかりをとゝめをきてさはかり思あかりおやすけたりし身を心もてうしなひつるよとあはれにおしければめさましとおもふ心もひきかへしうちなかれ給ぬ人ゝすへりかくれたるほとに宮の御もとによりたまひてこの人をはいかゝみ給やかゝる人をすてゝそむきはてたまひぬへき世にやありけるあな心うとおとろかしきこえ給へはかほうちあかめておはす

たかよにかたねはまきしと人とはゝいかゝいはねのまつはこたへむあはれなりなどしのひてきこえ給に御いらへもなうてひれふしたまへりことはりとおほせはしるてもきこえ給はすいかにおほすらむものふかうなとおほせねといかてかはたゝにはとおしはかりきこえ給もいと心くるしうなむ大將のきみはかの心にあまりてほのめかしいてたりしをいかなることにかありけむすこし物おほえたるさまならましかはさはかりうちいてそめたりしにいとようけしきはみてましをいふかひなきとちめにておりあしういふせくてあはれにもありしかなとおもかけわすれかたうてはらからの君たちよりもしめてかなしとおほえ給けり女宮のかく世をそむきたまへるありさまおとろゝしき御なやみにもあらてすかやかにおほしたちけるほとよ又さりともしるしきこえ給へきことかは二条のうへのさはかりかきりにてなくゝ申給ときゝしをはいみしきことにおほしてつゐにかくかけとゝめたてまつりたまへるものをなとゝりあつめて思ふたくなをむかしよりたえすみゆる心はへえしのはぬおりゝありきかしいとよう

もてしつめたるうはへは人よりけにようゐありのとかになにことをこの人の心のうちに思らむとみるひともくるしきまでありしかとすこしよはきところつきてなよひすきたりしけそかしいみしうともさるましきことに心をみたりてかくしもみにかふへきことにやはありける人のためにもいとおしうわか身はいたつらにやなすへきさるへきむかしのちきりといひなからいとかるくしうあちきなきことなりかしなと心ひとつに思へとをむな君にたにきこえてたまはさるへきついてなくて院にもまたえ申給はさりけりさるはかゝることをなむかすめしと申いて、御けしきもみまほしかりけりちゝおとゝはゝきたのかたはなみたのいとまなくおほしゝつみてはかなくするひかすをもしり給はす御わさのほうふく御さうそくなにくれのいそぎをも君たち御かたくとりくになむせさせ給ける経仏のをきてなとも右大弁の君せさせ給七日くの御す行などを人のきこえおとろかすにもわれになきかせそかくいみしと思まとふに中くみちさまたけにもこそとてなきやうにおほしほれたり一条の宮にはましておほつかなうてわかれたまひにしうらみさへそひて日ころふるまゝにひろき宮のうち人けすくなう心ほそけにてしたしくつかひならし給し人はなをまいりとふらひきこゆこのみ給したかむまなとそのかたのあつかりともゝみなつくところなう思うしてかすかにいっているをみ給もことにふれてあはれはつきぬものになむありけるもてつかひたまひし御てうとゝもつねにひき給しひわゝこむなどのをもとりはなちやつされてねをたてぬもいとむもれいたきわさなりや御前のこたちいたうけふりて花は時をわすれぬけしきなるをなかめつゝ物かなしくさふらふ人くゝもにひいろにやつれつゝさひしうつれくゝなるひるつかたさきはなやかにをふをとてこゝにとまりぬる人ありあはれこ殿の御けはひとこそうちわすれては思つれとてなくもあり大将とのゝおはしたるなりけり御せうそきこえられたまへりれいの弁の君さい将などのおはしたるとおほしつるをいとはつかしけにきよなるもてなしにていり給へりもやのひさしにおましよそひてくれたてまつるをしなへたるやうに人くゝのあへしらひきこえむはかたしけなきさまのし給へれはみやす所そたいめし給へるいみしきことを思給へなけく心はさるへき人くゝにもこえてはへれとかきりあればきこえさせやるかたなうてよのつねになり侍りにけりいまはのほとにものたまひをくことはへりしかはをろかならすなむたれものとめかたきよなれとをくれさきたつほとのけちめには思たまへをよはむにしたかひてふかき心のほとをも御らむせられにしかとなむ神わさなどのしけきころほひわたくしの心さしにまかせてつくくゝとこもりゐはへ

らむもれいならぬことなりければたちなからはた中くにあかす思給へらるへうてなむ日ころをすくし侍りにけるおとゝなどの心をみたりたまふさまみきゝ侍につけてもおやこのみちのやみをはさる物にてかゝる御なからひのふかく思とゝめたまひけむほとをゝしはかりきこえさするにいとつきせすなむとてしはくをしのこひはなうちかみたまふあさやかにけたかき物からなつかしうなまめいたりみやす所もはなこゑになりたまひてあはれなることはそのつねなきよのさかにこそはいみしとても又たくひなきことにやはとゝしつよりぬる人はしゐて心つようさましはへるをさらにおほしいりたるさまのいとゆゝしきましてししもたちをくれたまふましきやうにみえ侍れはすへていと心うかりける身のいまゝてなからへはへりてかくかたくにはかなきよのすゑのありさまをみ給へすくすへきにやといとしつ心なくなむをのつからちかき御なからひにてきゝをよはせ給やうもはへりけむはしめつかたよりおさくうけひきゝこえさりし御ことをおとゝの御心むけも心くるしう院にもよろしきやうにおほしゆるいたる御けしきなどのへしかはさらは身つからの心をきてのをよはぬなりけりと思給へなしてなむみたてまつりつるをかくゆめのやうなることをみたまふるに思給へあはすれば身つからの心のほとなむおなしうはつようもあらかひきこえましをと思はへるになをいとかやうそれはかやうにしもおもひよりはへらさりきかしみこたちはおほろけのことならてあしくもよくもかやうによつき給こととはえ心にくからぬことなりとふるめき心には思侍しをいつかたにもよらすなかそらにうき御すくせなりければなにかはかゝるついてにけふりにもまきれ給なむはこの御身のための人きゝなどはことにくちおしかるましけれとさりとてもしかすくよかにえ思しつむましうかなしうみたてまつり侍るにいとうれしうあさからぬ御とふらひのたひくになり侍めるをありかたうもときこえはへるもさらはかの御ちきりありけるにこそはと思やうにしもみえさりし御心はへなれといまはとてこれかれにつけをき給ひける御ゆいこんのあはれなるになむうきにもうれしきせはましり侍りけるとていといたうない給けはひなり大將もとみにえたためらひ給はすあやしういとこよなくをよすけたまへりし人のかゝるへうてやこの二三ねんのこなたなむいたうしめりて物心ほそけにみえ給しかはあまり世のことはりをおもひしりものふかうなりぬる人のすみすぎてかゝるためし心うつくしからすかへりてはあさやかなるかたのおほくうすらくものなりとなむつねにはかくしからぬ心にいさめきこえしかは心あさしと思たまへりしよろつよりも人にまさりてけにかのおほしなけくらむ御心のうちのかたしけな

けれといと心くるしうも侍るかなゝとなつかしうこまやかにきこえ給てやゝほとへてそいて給かの君は五六年のほどのこのかみなりしかとなをいとわかやかになまめきあいたれてものし給しこれはいとすぐよかにおもくしくをゝしきけはひしてかほのみそいとわかうきよなること人にすぐれたまへるわかき人くはものかなしさもすこしまきれてみいたしたてまつる御前ちかきさくらのいとおもしろきをことしはかりはどうちおほゆるもいまくしきすちなりければあひみむことはとくちすさひて

時しあれはかはらぬいろにゝほひけりかたえかれにしやとのさくらもわざ

とならずゝしなしてたち給にいとゝう

この春はやなきのめにそたまはぬくさきちる花のゆくゑしらねはときこえ

給いとふかきよしにはあらねといまめかしうかとありとはいはれ給しかういなりけりけにめやすきほどのよいなめりとみ給ちしの大殿にやかてまいり給へれは君たちあまたものし給けりこなたにいらせたまへとあれはおとゝの御いてゐのかたにいり給へりためらひてたいめんし給へりふりかたうきよけなる御かたちいたうやせおとろへて御ひけなともとりつくろゑたまはねはしけりてをやのけうよりもけにやつれ給へりみたてまつり給よりいとしのひかたければあまりにをさまらすみたれおつるなみたこそはしたなれと思へはせめてそもてかくし給おとゝもとりわきて御中よくものしたまひしをとみ給にたゝふりにふりおちてえとゝめ給はすつきせぬ御ことゝもをきこえかはし給一条の宮にまてたりつるありさまなときこえ給いとゝしう春さめかとみゆるまてのきのしづくにことならすぬらしそへ給たゝむかみにかのやなきのめにそとありつるをかい給へるをたてまつりたまへはめもみえすやとをしゝほりつゝみ給うちひそみつゝそみ給御さまれいは心つようあさやかにほりかなる御けしきなこりなく人わろしさるはことなることなかめれとこのたまはぬくとあるふしのけにとおほさるゝに心みたれてひさしうえたためらひたまはず君の御はゝ君のかくれたまへりし秋なむよにかなしきことのきはにはおほえ侍りしを女はかきりありてみる人すくなうとあることもかゝることもあらはならねはかなしひもかくろへてなむありけるはかくしからねとおほやけもすて給はすやうく人となりつかさくらゐにつけてあひたのむ人くをのつからつきくにおほうなりなとしておとろきくちおしかるもるいにふれてあるへしかうふかきおもひはそのおほかたの世のおほえもつかさくらゐもおもほえすたゝことなることなかりし身つからのありさまのみこそたへかたくこひしかりけれなにはかりのことにてかおもひさ

ますへからむとそらをあふきてななめ給ゆふくれのくものけしきにひいろにか
すみてはなのちりたるこすゑともをもけふそめとゝめ給この御たゝむかみに
このしたのしづくにぬれてさかさまにかすみのころもきたる春かな大将の

君

なき人と思はさりけむうちすてゝゆふへのかすみきみきたれとは弁君

うらめしやかすみのころもたれきよとはるよりさきに花のちりけむ御わさ

などよのつねならすいかめしうなむありける大将とのゝきたのかたをはさる物
にてとの心ことにす経なともあはれにふかき心はへをくはへ給かの一条の宮
にもつねにとふらひきこえ給う月はかりのうのはなはそこはかとなう心ちよけ
にひとついなるよものこすゑもおかしうみえわたるをもの思やとはよろつの
ことにつけてしつかに心ほそうくらしかねたまふにれいのわたり給へりにはも
やうくあおみいつるわかくさみえわたりこゝかしこのすなこうすきものゝか
くれのかたによもきもところえかほなりせんさいに心いれてつくろひたまひし
も心にまかせてしけりあひひとむらすゝきもたのもしけにひろこりてむしのね
そへむ秋思やらるゝよりいと物あはれにつゆけくてわけいり給いよすかけわた
してにひいろのき丁のころもかへしたるすきかけすゝしけにみえてよきわらは
のこまやかにゝはめるかさみのつまかしらつきなとほのみえたるおかしけれと
なをめおとろかるゝいろなりかしけふはすのこにゐたまへはしとねさしいてた
りいとかるらかなるをましなりとてれいの宮す所おとろかしきこゆれとこのこ
ろなやましとてよりふしたまへりとかくきこえまきはすほとおまへのこたち
とも思ことなけなるけしきをみ給もいと物あはれなりかしはきとかえてどのも
のよりけにわかやかなるいろしてえたさしかはしたるをいかなるちきりにかす
ゑあへるたのもしさよなどの給てしのひやかにさしよりて

ことならはならしのえたにならさなむはもりの神のゆるしありきとみすの

とのへたてあるほとこそうらめしけれとてなけしによりゐたまへりなよひすか
たはたいといたうたをやきけるをやとこれかれつきしろふこの御あへしらひき
こゆる少将の君といふ人して

かしは木にはもりの神はまさすとも人ならすへきやとのこすゑかうちつけ

なる御ことのはになむあさう思給へなりぬるときこゆればけにとおほすにすこ
しほおゑみたまひぬ宮す所るさりいて給けはひすればやをらるなおり給ぬうき
世中を思給へしつむ月日のつもるけちめにやみたり心ちもあやしうほれくし
うてすくし侍るをかくたひくかさねさせ給御とふらひのいとかたしけなきに

思給へおこしてなむとてけになやましけなる御けはるなりおもほしなけくはよ
のことはりなれと又いとさのみはいかゝよろつのことさるへきにこそはへめれ
さすかにかきりある世になむとなくさめきこえ給この宮こそきゝしよりは心の
おくみえ給へあはれけにいかに入わらはれなることをとりそへておほすらむと
思もたゝならねはいたう心とゝめて御ありさまもとひきこえ給けりかたちそい
とまほにはえ物し給ましけれといとみくるしうかたわらいたきほとにたにあら
すはなとてみるめにより人をも思あき又さるましきに心をもまとはすへきそさ
まあしやたゝ心はせのみこそいひもてゆかむにはやむことなかるへれとおも
ほすいまはなをむかしにおもほしなすらへてうとからすもてなさせ給へなとわ
さとけさうひてはあらねとねむころにけしきはみてきこえ給なおしすかたいと
あさやかにてたけたちものゝしうそろゝかにそみえ給けるかのおとゝはよろ
つのことなつかしうなまめきあてにあい行つき給へることのならひなきなりこ
れはをゝしうはなやかにあなきよらとふとみえ給にほひそ人にゝぬやとうちさ
ゝめきておなしうはかやうにてもいていり給はましかはなと人ゝいふめりい
うしやうくんかつかにくさはしめてあおしとうちくちすさひてそれもいとちか
きよのことなれはさまゝにちかうとをう心みたるやうなりし世中にたかきも
くたれるもおしみあたらしからぬはなきもむへゝしきかたをはさる物にてあ
やしうなさけをたてたる人にそものし給ければさしもあるましきおほやけ人女
はうなどのとしふるめきたるともさへこひかなしひきこゆるましてうへには御
あそひなどのおりことにもまつおほしいてゝなむしのはせ給けるあはれゑもん
のかみといふことくさなにつけてもいはぬ人なし六条の院にはましてあ
はれとおほしいつること月日にそへておほかりこのわか君を御心ひとつにはか
たみとみなしたまへと人のおもひよらぬことなれはいとかひなし秋つかたにな
れはこのきみはあさりなと